

特記仕様書(1)

工事名称 日高村役場新庁舎防火水槽設置工事

設計年度(設計図)	令和3年度
工事期間(完成図)	令和 年 月 日～令和 年 月 日
工事場所	高知県高岡郡日高村本郷6-1-1

棟名	構造	階数	延床面積(m ²)	用途地域	消防法施行令別表第一の区分
水槽類	FRP造	戸数			第1種住居 第2種住居
		1			

I 共通事項

種目	項目	特記仕様(※及び●印をつけたものを適用する)
一般共通仕様	適用仕様	※ 特記なき事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編 平成31年版)」(改修工事の場合は、「公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編 平成31年版)」)及び「公共建築設備工事標準図(機械設備工事編 平成31年版)」による。 ※ 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 「工事写真の撮り方 建築設備編」 ※ 国土交通省仕様 (例：外壁の地中部等 水密を要する部分はツバ付鋼管スリーブ等、地中部で水密を要しない部分はVPスリーブ、柱、梁以外の箇所、開口補強が不要でスリーブ径200mm以下は紙スリーブでもよい。)
	スリーブ	○ 国土交通省仕様 ● メーカー仕様 ※ 「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説・平成8年度版」(建設大臣官房官庁営繕部監修)によることとし、施工は「建築設備耐震設計・施工指針」(国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修 2014年版)による。 建物の種別： ● 特定の施設 ○ 一般の施設 地域係数： 1.0 1) 設計用水平地震力は、機器の質量(自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量)に、地域係数及び設計用標準水平震度を乗じたものとする。 特記なき場合の設計用標準水平震度は次による。
	機器類	重要機器 防災機器 火を使用する機器 タンク類 消火設備機器
	耐震措置	2) 設計用鉛直地震力は設計水平地震力の1/2とする。 ※ 機器固定ナットはロックナット又は2重ナットとする。 注) ナットに対するボルトの余長は3山以上を標準とする。 ※ 機器の固定に使用する金属系アンカーはスリーブ打込み式または、ウエッジ式とする。(県標準図16) ※ ケミカルアンカーは、天井方向に使用しない。 ※ 一階土間コンクリート下部配管はステンレス吊りボルトにてスラブ筋に支持する。 ※ 屋外及びビッド内配管の支持金物・吊り金物はSUS製又は亜鉛ドブ漬とする。屋内外露出部には既製品支持架台は使用しない。 ※ 仕様のとおり吊り配管等も施工しても、他の資材配管等と干渉する場合は振れ止めを適宜設ける。
	機器の固定	※ サヤ管工法で施工する場合、サヤ管施工後に配管挿入を行うこと。(同時施工を行わない。)
	配管の支持	● 一般敷地300mm以上 ● 車両通路600mm以上 ● 公道800mm以上 ○ 公道1,000mm以上 ○ 公道1,200mm以上。 ● 埋設管は周囲100mm程度に保護砂を入れる。ただし排水管は別記による。 ○ 量水器以降の埋設給水管はクイックチューブ等で巻く。
	サヤ管工法	● 構外搬出 ○ 構内敷ならし ○ 構内指示の場所にたいせき
	埋設深さ(管上)	※ アスファルト、アスファルト路盤は原則として再生品を使用する。 ※ 浄化槽・樹類の砂利地業は原則として再生クラッシュランを使用する。(アスファルト再生品混じりは不可)
	埋設管の保護	※ 本工事中において、細骨材に海砂を配合した生コンクリートを使用する場合、高知県内産海砂を配合したものを優先的に使用するものとする。
	残土処分	※ 既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターによる。 ※ はつり、穴開け及びあと施工アンカー等の施工にあたり、埋設物の事前調査を行う。施工場所を鉄筋探査器により探査し、鉄筋・配管類の位置に墨出しを行う。 なお、鉄筋・配管類を切断する恐れがある場合は、事前に監督職員と協議をすること。 ※ 下記項目の総合調整を行い、測定表を監督職員に提出する。(測定場所等は監督職員の指示による。) ● 風量調整 ● 水量調整 ● 室内外空気の温度の測定 ● 騒音の測定 ○ 室内気流及びじんあいの測定 ○ 飲料水(●11 ○24)項目検査
建設副産物	○ 配管施工(配管工事) ○ 熱絶縁施工(保温工事) ○ 建築板金施工(ダクト製作及び取付) ○ 冷凍空調調和機器施工 ○ その他 完成図 ※ CADデータをCD-Rに保存して提出。 ※ 画像データ(PDF形式) ※ A4版黒表紙金文字製本 1部 ※ 2ツ折りA3版製本 1部 施工図 ○ CADデータをCD-Rに保存して提出。 ○ 画像データ(PDF形式) ● 2ツ折り製本(サイズは原因による) 工事管理資料(写し) ※ フラットファイル等に閉じたもの。 工事写真 ※ フラットファイル等に閉じたもの。 工事日誌 ※ フラットファイル等に閉じたもの。 工具類 ○ マンホールフック ○ 制水弁ハンドル ○ 掃除口ハンドル ● 汚水樹蓋ハンドル	
コンクリート工事/骨材	※ 対象建築材料等 ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、ユリア樹脂板、壁紙、緩衝材、断熱材、保温材、仕上げ塗材 F☆☆☆☆又は同等の大臣認定品とする。	
はつり・非破壊検査	ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを含有していない水性形のものとする。 クロルピリホリス、ダイアジノン、フェノカルブを含有しない、非有機リン系の薬剤とし、加圧式防腐・防蟻処理は工場で行い、十分乾燥した後に現場搬入する。 1) ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを含有していないものとする。 2) フタル酸ジ-n-ブチル、フタル酸ジ-2-ヘエチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用しているものとする。 ①、②、③、④の建築材料を使用する場合はF☆☆☆☆を基本とし、該当する材料がない場合はF☆☆☆☆又は同等品を使用する。	
総合調整	室内に関わる材料(上記②～④及び建具、シール材、その他その接着剤や塗料の溶剤まで含む)については、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、フタル酸ジ-n-ブチル、フタル酸ジ-2-ヘエチルヘキシル、クロルピリホリス、ダイアジノン、フェノカルブの有無または成分について一覧表に記入し、その資料を添付して提出するものとする。	
技能士の適用		
完成後の提出物		

配管材料	① 配管用炭素鋼鋼管【SGP黒管】(JIS G 3452) ② 配管用炭素鋼鋼管【SGP白管】(JIS G 3452) ③ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管【SGP-VA】(JWWA K 116・WSP 011) ④ 水道用内外面硬質塩化ビニルライニング鋼管【SGP-VD】(JWWA K 116) ⑤ 水道用ポリエチレン粉末ライニング鋼管【SGP-PA】(JWWA K 132・WSP 039) ⑥ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管【SGP-VS】(WSP 041) ⑦ 水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管【SGP-HVA】(JWWA K 140) ⑧ 内外面耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管【SGP-WHTLP】 ⑨ 一般配管用ステンレス鋼鋼管【SUS 304 TPD】(JIS G 3448) ⑩ 配管用ステンレス鋼鋼管【SUS 304】(JIS G 3459) ⑪ 水道用ダクタイル鉄鋼管【3種管】(JWWA G 113) ⑫ 鋼管【M】(JIS H 3300) ⑬ 外面被覆鋼管【M】(JIS H 3330) 給湯 ⑭ 耐熱性硬質塩化ビニル管【HTVP】(JIS K 6776) ⑮ 水道用硬質塩化ビニル管【VWVP】(JIS K 6742) ⑯ 耐衝撃性硬質塩化ビニル管【HIVP】(JIS K 6742) ⑰ 水道用ゴム輪形硬質ポリ塩化ビニル管【RR-VP】(JWWA K 127) ⑱ 水道用ゴム輪形耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管【RR-HIVP】(JWWA K 129) ⑲ 水道用ポリエチレン二層管【HIVP】(JIS K 6762) ⑳ 水道配用水用ポリエチレン管【JWWA K 144】	㉑ 架橋ポリエチレン管 (JIS K 6769) ㉒ ポリブテン管 (JIS K 6778) ㉓ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管【D-VA】(WSP 042) ㉔ 排水用ノンターールエポキシ塗装鋼管 (WSP 032) ㉕ 排水用鋼鉄管【メカニカル形2種管】(JIS G 5525) ㉖ 鉛管(HASS 203) ㉗ 硬質ポリ塩化ビニル管【VP】(JIS K 6741) ㉘ 硬質ポリ塩化ビニル管【VU】(JIS K 6741) ㉙ 排水・通気用耐火二層管【内管VP】 ㉚ 卵形管【ゴムリング】(JAWAS K-3) ㉛ プレキャスト鉄筋コンクリート製品 (JIS A 5372) ヒューム管 ㉜ ポリエチレン被覆鋼管【ガス・アイボリー】(JIS G 3469) ㉝ ガス用ポリエチレン管 (JIS K 6774) ㉞ ガス用ステンレス製フレキシブル管【原管(JIS G 4305)によりガス用に製造されたもの】 ㉟ 断熱材被覆鋼管【ポリエチレン保温材】(JGDA 0009) 冷媒 ㊱ 屋外消火栓設備用高性能ポリエチレン管(日本消防設備安全センターの性能認定取得品) ㊲ - ㊳ - ㊴ - ㊵ - ㊶ -
	管種 使用 区分	工種 場所 屋内一般 屋内ビット 屋内コンクリ 屋内土中 屋外埋設 屋外架空
塗装・防食	※ 居室等に露出して使用する配管支持金具類(電気メッキ品)は塗装を施す。 ※ 亜鉛メッキ面の塗装下地は化学処理(エッチングプライマ)を施す。 ※ 鋼管類のコンクリート内配管にはプラスチックテープ1/2重ね1回巻きとする。 ※ 土中埋設する鋼鉄管、鋼鉄異形管(メカ型継手共)及び特殊継手類はポリスリーブ巻きとする。	
	工種 場所 屋内露出 機械室・倉庫 天井・PS内 床下暗渠内 屋外露出 屋外埋設 備考	
保温・防露	給水 a()VII b()VII c2()VII d()VII e2()VII (二)	
	排水・空調ドレン a()VII b()VII c2()VII d()VII e2()VII	
表示	給湯 a()I b()I c2()I d()I e2()I	
	冷水・冷温水管 A()III B()III C1()III D()III E2()III	
発生材の処理	冷媒管 (チ)+スリムダクト (チ) (チ) (チ) (チ)+(ル)	
	矩形ダクト J1()XI I()XI I()XI K2()XI	
	スパイラルダクト O1()XI N()XI N()XI P2()XI	
	(イ)ロックウール保温材 (ロ)グラスウール保温材 (ハ)ポリスチレンフォーム保温材 (ニ)簡易保温筒10mm (ホ)簡易保温筒20mm (ヘ)簡易耐熱保温筒10mm	(ト)簡易耐熱保温筒20mm (チ)冷媒用被覆鋼管 (リ)SUSラッキング (ヌ)ガルバリウム鋼板 (ル)カラーガルバリウム鋼板 (ヲ)-
	※ 配管表記 ①機械室・ビット・PS内・天井点検口付近には必ず表記する。 ②表記内容は、流体・サイズ・系統名とする。 ③場所・向き・文字サイズ等事前協議決定後に施工する。 ※ 設計記号の付いている主要機器には、カッティングシート・ペンキ等にて表記(管理番号・室名・設置年月等)を行う。なお、該当する主要機器を事前確認する。 ※ パッケージエアコン等の空調機は、室内外機に表記を行う。(県標準図13) ※ 水中に設置するような各種主要機器類(水中ポンプ等)は銘板を墨付近にも設ける。(製造者名、製造年月、形番、性能等を順記する。) ※ 屋外に設置するバルブ札は風で飛んだり騒音を立てないように固定するか、表示方法を協議する。 ※ バルブBOX内部に系統名・管サイズ・設置年月を書いた亚克力札を入れる。 ※ 埋設バルブボックスの蓋の向きは流体の行き先側に蓋の付根を向ける。 ※ 排水以外の屋外埋設管には曲・分岐部その他埋設管の位置が確認できるように標示板(標示柱は県標準図8)を設ける。 ※ 配管の埋長時は、GL-200mm程度に埋設表示用アルミテープを埋設する。(排水・通気管を除く)	
	○ 引渡しを要するもの () ○ 現場において再利用を図るもの () ※ 再生資源化を図るもの ・コンクリート塊 ・アスファルトコンクリート塊 ・建設発生木材 ※ 廃石膏ボード等は、原則分別再利用処理とする。 ※ 発生材搬出時の写真記録の方法は特記仕様書(共通編)による。	
		図面No
		特記 1-1

DATE	PROJ. NO.	PROJ. TITLE	機械
CHECK		DWG. TITLE	DWG. NO
		日高村役場新庁舎防火水槽設置工事	M-01
		機械設備 特記仕様書(1)	A1 S=1:100 SCALE A3 50%出力

特記仕様書(2)

II 工事種目																																														
○ 衛生器具設備	取付位置	※ 衛生器具及び周辺機器類の取付位置は総合図・展開図等を作成して、確認後に取付けること。 (特に、便器類と手すり・便器類と操作ボタン類・操作ボタン類と手すり等の位置関係に注意) ※ 和風大便器下面でコンクリートに接する部分はアスファルト塗布(3mm以上)とする。(県標準図1) ○ 汚物缶																																												
	大便器 化粧鏡 洗濯機パン シール(コーキング)	※ 和風大便器を防火区画に設置する場合、和風便器用耐火カバーを設ける。 ※ 化粧鏡取付にあたっては落下破損防止のため、裏面シール材等による張付けで取付などの処置を施す。 ※ 洗濯機パンを設置する床面は、耐荷重性と平滑性に注意する。 ※ 器具類と壁・床のシール(コーキング)打ちは下記の表による。																																												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器種別</th> <th colspan="2">設置場所の床が湿式(防水)</th> <th colspan="2">設置場所の床が乾式(非防水)</th> </tr> <tr> <th>壁</th> <th>床</th> <th>壁</th> <th>床</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>洋風便器</td> <td>—</td> <td>不</td> <td>—</td> <td>要</td> </tr> <tr> <td>洗面器類</td> <td>不</td> <td>—</td> <td>要</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>掃除流し</td> <td>不</td> <td>—</td> <td>要</td> <td>不</td> </tr> <tr> <td>洗濯流し</td> <td>不</td> <td>—</td> <td>要</td> <td>不</td> </tr> <tr> <td>洗濯パン</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>要</td> <td>不</td> </tr> <tr> <td>ステンレス流し台</td> <td>要</td> <td>不</td> <td>要</td> <td>不</td> </tr> <tr> <td>化粧棚</td> <td>不</td> <td>—</td> <td>要</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>壁・床の仕様にかかわらず、自動水栓装置・コンセント・非常呼出しなど電気機器類に水かかりが好ましくない場合はシール打ちを施す。</p>	機器種別	設置場所の床が湿式(防水)		設置場所の床が乾式(非防水)		壁	床	壁	床	洋風便器	—	不	—	要	洗面器類	不	—	要	—	掃除流し	不	—	要	不	洗濯流し	不	—	要	不	洗濯パン	—	—	要	不	ステンレス流し台	要	不	要	不	化粧棚	不	—	要	—
機器種別	設置場所の床が湿式(防水)			設置場所の床が乾式(非防水)																																										
	壁	床	壁	床																																										
洋風便器	—	不	—	要																																										
洗面器類	不	—	要	—																																										
掃除流し	不	—	要	不																																										
洗濯流し	不	—	要	不																																										
洗濯パン	—	—	要	不																																										
ステンレス流し台	要	不	要	不																																										
化粧棚	不	—	要	—																																										
器具周辺部の保温		※ 洗面化粧台下の扉内の給水・給湯管(ヘリューズ管等)は簡易保温テープ巻きの保温を施す。 (流し台下電気温水器廻りの給水・給湯配管等も同様とする。)																																												
流量調整		※ 小便器・大便器等の手动フラッシュ弁流量調整は、下記の流出時間を目安とする。ただし、衛生器具のマニュアル等に記載があれば内容に準ずること。 大便器 8~10秒 小便器 8~10秒 自閉式水栓 7秒																																												
● 給水設備	負担金 弁類	○ 不要 ○ 要() ※ 直圧給水弁は水道事業者の指定品(指定のない場合は、二次側給水に準じた弁) ※ 二次側給水弁(上中): 40A以下は青銅製で蝶ハンドル付き止水栓、50A以上はソフトシール制水弁(内面ライニング) ※ 二次側給水弁(一般): 40A以下は管端防食ねじ込み形青銅弁5K、50A以上は鑄鉄製F付き内面ライニング弁5K																																												
	継ぎ手類	※ 水栓エルボ、水栓ソケットは器具側金内ねじ形とする。 ※ ユニットバス付風呂の水栓エルボへの接続は砲金継手等を使用し、管端の防錆を施す。 ※ ビニル管とライニング鋼管の接続には水栓エルボ・水栓ソケットは使用しない。 ※ TSバルブソケットは金属製(砲金)おすネジを打込しているものを使用する。 ※ 水道事業者の指定がない場合の埋設弁のボックスは、県標準図5・6による。																																												
	バルブボックス 隠蔽部の保温	※ 水道事業者の指定がない場合の埋設弁のボックスは、県標準図5・6による。 ※ 給水管の細部保温は特記なき場合は下記の通りとする。壁中等で仕様書通りの施工が困難な場合は監督職員の指示により保温を施す。 空間の有る壁中配管 → 要 流し下の空間配管 → 要																																												
	既設給水鋼管への接続	※ 改修工事等で鋼管類(ライニング鋼管)を切断して、やむを得ず、メカ型継手を使用する場合には、鋼管類の切断部の防錆処理として、JWWA K 135規格適合品(エポキシ系DEVCON SF等バイプライニング用)にて処置する。																																												
水槽類の施工手順 水槽類の衛生管理		※ 水位設定の協議後、水位高さ入り施工図を作成し発注・施工を行う。なお、県標準図4を参考とし水位高さを協議する。 ※ 受水槽・高架水槽を新設(改修等含む)施工する場合は、清掃・消毒等後に水張りを行う。																																												
● 排水設備	保護砂 砂利	● 第1樹以降の屋外ビニル管部分には、保護砂(180度台)を要す。 ○ 遠心力鉄筋コンクリート管部分には砂利台を要す。 ○ 防護蓋を設置する場合は県標準図7による。																																												
	樹脂製排水樹 衛生器具等の接続	○ 洗面器等の排水金具と専用の排水アダプタでビニル管に接続できない場合、VCパッキンを使用する。 ○ 既設流しの排水金具に使用しているジャバラホースはそのまま使用せず、VP配管直結(VCパッキンでも可)とする。県標準図5による。 ○ 雨水立管の下部受部は差込継手を使用する。(但し平屋建は不要とする。)																																												
	排水管の防露 排水管の試験等 その他	※ 空間のある壁中配管・集合住宅等のスラブ上配管・受水槽他水槽からドレンバルブまで一必要 流し台下空間配管・実験台等への立ち上がり露出配管→不要 ○ 満水試験 ○ 通水試験 ○ 鏡確認 ※ 洗濯機排水金物の床貫通部等は共住区画に適合する処理を施す。																																												
○ 消火設備	消火栓箱	○ 消火栓箱は(○ 県標準図12 ○ 国土交通省仕様 ○ メーカー仕様) ○ 共用区画の消防検査受検必要 ● 消火器(ABC10型)																																												
○ 給湯設備	弁類 絶縁対策	● 40A以下は青銅弁5K、50A以上は一般配管用ステンレス鋼弁10K ※ 鋼管及びステンレス配管は支持金物との絶縁処理を行う。 ※ 銅板製ボイラー及び鋼管との接続等、異種管との接続には絶縁継手を使用する。																																												
	給湯管の保温 大気汚染対策	※ 給湯配管に簡易保温筒(クイックチューブ)を使用する場合は耐熱性のものを使用する。 ※ 被覆鋼管の継手カバーは保温付きのものを使用する。 ※ 給湯器の配管化粧カバー内は凍結破損防止を考慮した保温(簡易保温筒)施工を行う。 ○ 排ガス監視装置を要す。 ○ ばい煙濃度測定口を要す。																																												
○ ガス設備	ガス集合装置 給湯器用止水弁 その他	※ ガス集合装置は県標準図9・10・11を参照し、漏洩検知装置・耐震遮断装置・転倒防止金具等の必要有無に注意する。 ※ スプリングチャッキ内蔵ボール弁を使用する。 ※ ガス用フレキ管とガスコック等(ヒューズコック)との接続は、コック等の固定が出来る部材等を使用して接続する。 ※ ゴムホース接続なきコックはゴムキャップを付ける。 ※ ポンベ支持クサリ用のアンカーボルトは、10mm以上のもので、下記のいずれかとする。 ※ 埋込アンカー・雄ネジ形メカニカルアンカー・接着系アンカー(ケミカルアンカー)なお、チェーン、フックも同様の強度を持つものとする。 ※ 自記記録計によるガス圧テスト表の写しを県に提出し、正本は施工業者で5年間保存する。																																												
	種汚泥 試運転調整 その他	※ 使用開始時には必要に応じて種汚泥を投入する。 ※ 浄化槽の使用開始後おおむね3ヶ月間の試運転調整を行うもので、浄化槽法による「保守点検及び清掃等」を行うほか下記の事項を言う。 1 最低限の点検回数は 単独処理・小型合併・沈澱分離方式合併処理・・・月1回 流量調整槽のある合併処理・・・2週に1回 2 維持管理を管理業者に引継ぐ場合は直前に水質検査(BOD、SS、PH、大腸菌、塩素イオン)を行い、そのコピーを維持管理業者、施設管理者、工事監督者に渡し、設計・施工・現況の注意事項を申し送ること。 ※ 見やすい場所に型式、施工者名、設置年月、処理能力、放流水質を記入した銘板を設置する。 ※ コンクリート頂版スラブを施工する場合、モルタルの浮き上がり、及び、水たまりが出来ないように仕上げ勾配に注意する。 ○ 補助金申請設備																																												

○ 空調調和・換気設備	空調機器の仕様 パッケージエアコン等	※ グリーン購入法(国等による環境物品等の調達等の推進等に関する法律(平成十二年法律第百号))の判断基準適合品とする。 なお、パッケージ及びマルチエアコン等については、各メーカーの最高効率機種とする。 ○ 屋外機はJRA耐重塩害仕様とする。 ○ 屋外機は耐塩害仕様とする。 ※ パッケージエアコン屋内機機種の施工については県標準図13を参考にして注意する。 ○ 天カセ形室内機の取付等による天井の開口及び補強・補修を行う。(建築工事標準詳細図参照) 1) 補強野縁は野縁と、補強野縁受及び取付け用補強材は野縁受と同材とする。 2) 野縁受のは出しが300mm以上の場合は、増し吊り設ける。 ※ 室外機には設置場所を問わず、SUS製または溶融亜鉛メッキ製の転倒防止金具もしくは転倒防止ワイヤーを設ける。
	計測機器等 自動空気抜き弁装置 冷媒配管のラッキング ダクト 制気口チャンパ 消音内貼り 厨房等の排気フード	○ 温度計()ヶ所 圧力計()ヶ所 風量測定口()ヶ所 瞬間流量計()ヶ所 手動空気抜き弁装置()ヶ所 ※ 温度計等は視認性を重視した丸型(100mm以上)とする。 ○ 不要 ○ 要()ヶ所 自動空気抜き弁にはGV及びストレーナーを取付ける。 ※ 配管ラッキング(溶融アルミニウム-亜鉛鉄板・配管化粧カバー)は室外機の直近まで施す。 ※ 配管化粧カバー(スリムダクト)の場合は、エンドキャップを使用しテープ巻きの範囲を最小限とする。(フリーコーナー(ジャバラ)は使用しない。) ● アルミフレキ(不燃材料認定品) ○ ステンレスフレキ(不燃材料認定品) ○ ● 空調換気ダクトの気密性が特に重要な室に設ける、制気口・ボックス・保温及び天井の収まりについては県標準図14の記載内容を確認する。 ※ 内貼りチャンパの寸法表示は、外法寸法とすること。サブライチャンパにはその上に銅きつ甲金網押えを行う。 ※ 消音材はグラスウール(吹出口チャンパ・吸込口チャンパ・レターンチャンパは25mm厚、サブライチャンパは50mm厚)とし、ガラスクロス押えとする。 ※ 排気フードは、SUS304製とする。(1.0mm厚) ※ フィルターは分解掃除が出来るものにする。 ※ 黄銅製コックは20mmのものとする。(キャップ止でもよい) ※ 火器使用機器が確定後にフードの形状寸法を変更して、投影面積が変わる場合はフードの面風速もチェックする。 (参考: フードの面風速は一般的に0.3m/sとして設計している。) ※ 送風機の機器表にファンの番手(＃)を明記している場合、小さい番手にしない。 ※ エアコン設置に必要な一次側電源送り以降の、室内外差り電源線、制御線、アース(CE2sq/4C・CE3.5sq/4C程度)を要す。 ※ リン線はEM-AEO.9mm/2C~3C、又はVCTF0.75sq/2C~3Cとする。(但し延長が10m以下のリン線は機器付属品でもよい。) ※ 室内外の差り配線で、冷媒配管と同じルートで施工する場所は同保温外装内に納める。(電源・制御配線の最低離隔距離は機器メーカーの基準に準ずる。) ※ 表示窓の付いたリモコンの取付場所は視認性の良い高さ(1.300~1500h) 照明SWの上を標準とするが、総合図で充分打合せ調整を行う。 ※ 防振ハンガーの設置判断基準は県標準図14による。 ※ 震災後の設備機能確保を図る実務的設備耐震対策措置は県標準図15による。 ※ 冷温水発生機、ボイラ及び温風暖房機の盤の始動スイッチの二次側に煤煙濃度計用電源端子を設ける。 ○ 排ガス監視装置を要す。 ○ ばい煙濃度測定口を要す。
○ 別工 塗事	別途工事	● スリーブ、箱入れの補強筋 ○ ガラリ ● 点検口 ○ ● 天井および壁貫通に対する下地補強 ○ プロパンボンベ庫 ○ ○

III 材料メーカー表	
材 料	材 料 メ ー カ ー
衛生陶器	TOTO、LIXIL(INAX)、ジャニス工業
水栓金具類	TOTO、LIXIL(INAX)、ジャニス工業、三栄水栓
FRP水槽	三菱、日立、積水、ブリヂストン
うず巻ポンプ	荏原、日立、三菱、川本
水中モーターポンプ	荏原、日立、三菱、川本、鶴見
汚水・汚物ポンプ	荏原、日立、三菱、川本、鶴見、新明和
電気温水器	三菱電機、ユパック、日本電熱、東芝、パナソニック、三菱、日立
厨房機器	日本調理、フジマック、北沢、ホシザキ四国、タニコー、マルゼン
小型銅板ボイラー	巴、昭和、愛知、ネボン、ヒラカワ
FRP膨張タンク	日立化成、三菱樹脂、ホーコス
ルームエアコン	ダイキン、三菱、日立、パナソニック、東芝キャリア
パッケージエアコン	ダイキン、三菱、日立、パナソニック、東芝キャリア
冷温水発生機	矢崎、日立、荏原、川重、三菱重工
エアハンドリングユニット	新晃、ダイキン、三菱、昭和、パナソニック、日立、木村、東芝キャリア、三菱重工
送風機	日立、テラル、荏原、パナソニック、谷山、ミツヤ、旭電業
冷却塔	矢崎、日立、荏原シワ、空研、日本スピンドル
自動制御機器	アズビル、ジョンソンコントロールズ
ロールフィルター	日本スピンドル、東洋空気調和、日本エアフィルタ
全熱交換機換気扇	三菱、パナソニック、テラル、東芝、日立、ダイキン
その他	国土交通省仕様適合品

完成後必要な 取扱資格者	ボイラ	○ 資格不要 ○ 特別教育修了者(小型ボイラ) ○ 講習修了者 ○ () 級ボイラ技士
	危険物	○ 資格不要 ○ 危険物取扱主任者
	冷凍機	○ 資格不要 ○ 第() 種冷凍機械作業主任者

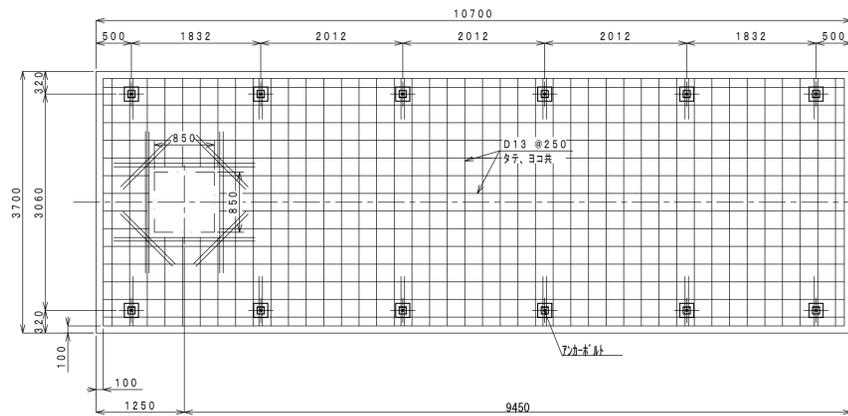
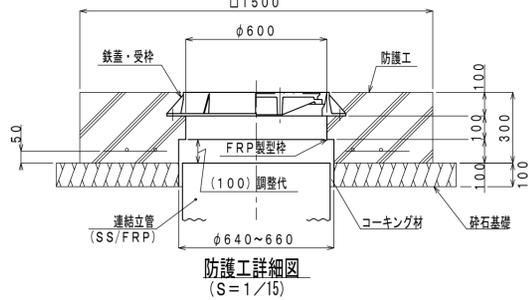
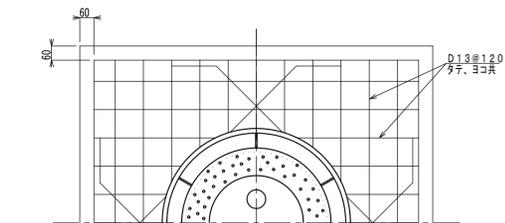
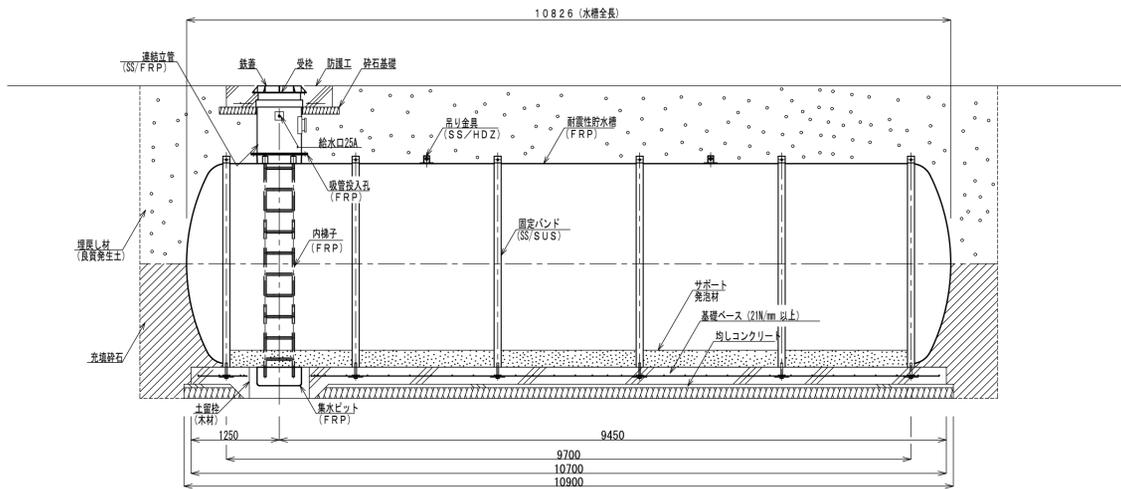
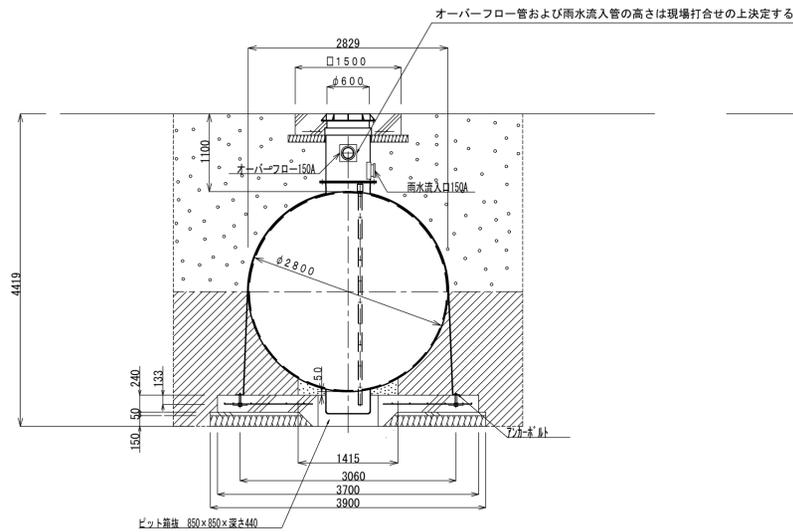
	官公庁等	打 合 せ 事 項	確 認 日
給 水			平成 年 月 日
排 水			平成 年 月 日
消 防			平成 年 月 日
浄 化 槽			平成 年 月 日
ガ ス			平成 年 月 日
そ の 他			平成 年 月 日

	図面No
	特記 1-2

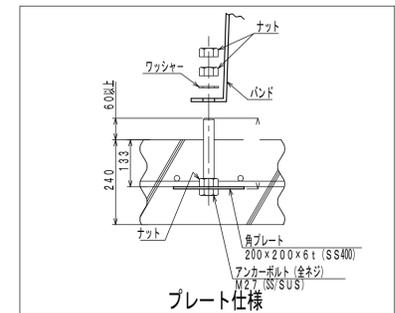
DATE	PROJ. NO.	PROJ. TITLE	機 械
		日高村役場新庁舎防火水槽設置工事	
CHECK	DRG. TITLE	SCALE	DRG. NO.
	機械設備 特記仕様書(2)	A1 S=1:100 A3 50%出力	M-02



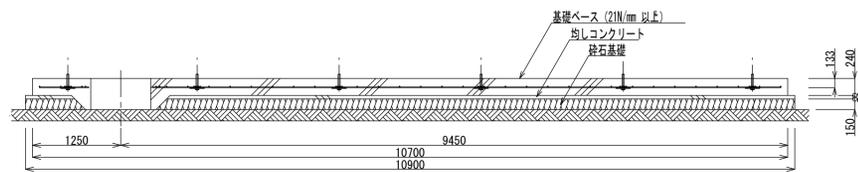
		DATE	PRD. N.	PROJ. TITLE	機械
		CHECK		日高村役場新庁舎防火水槽設置工事	
				給排水設備 配置図	DWG. NO
				A1 S-1 : 200	M-03
				SCALE A3 50%出力	



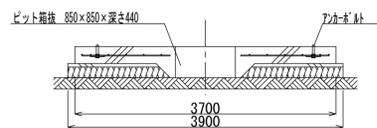
※D13、S D295以上を使用



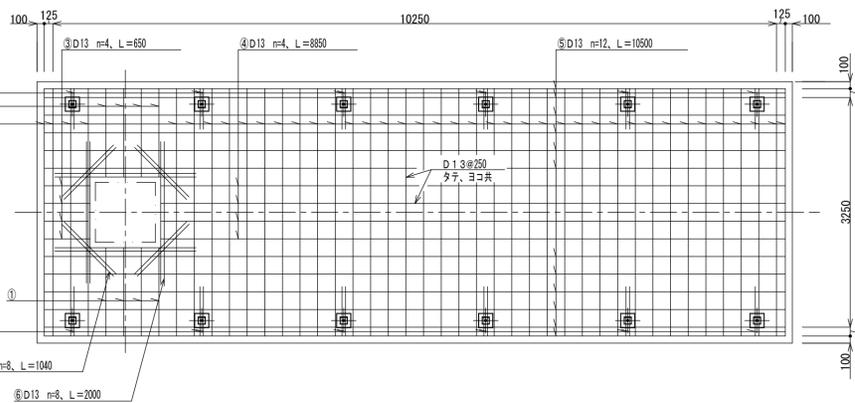
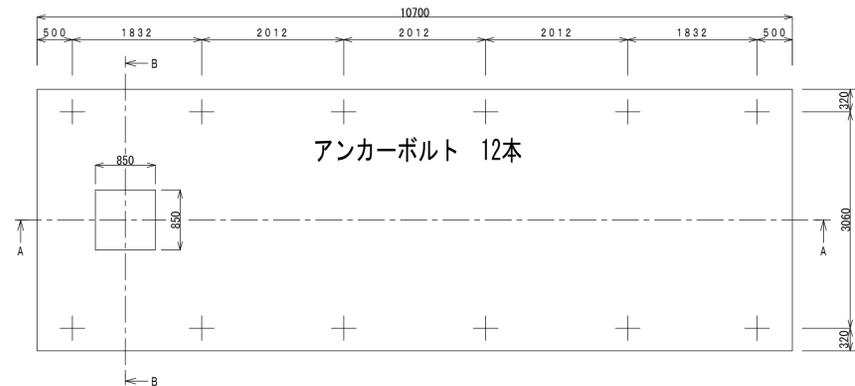
アンカーボルト詳細 (S=1/10)



A-A断面図



B-B断面図



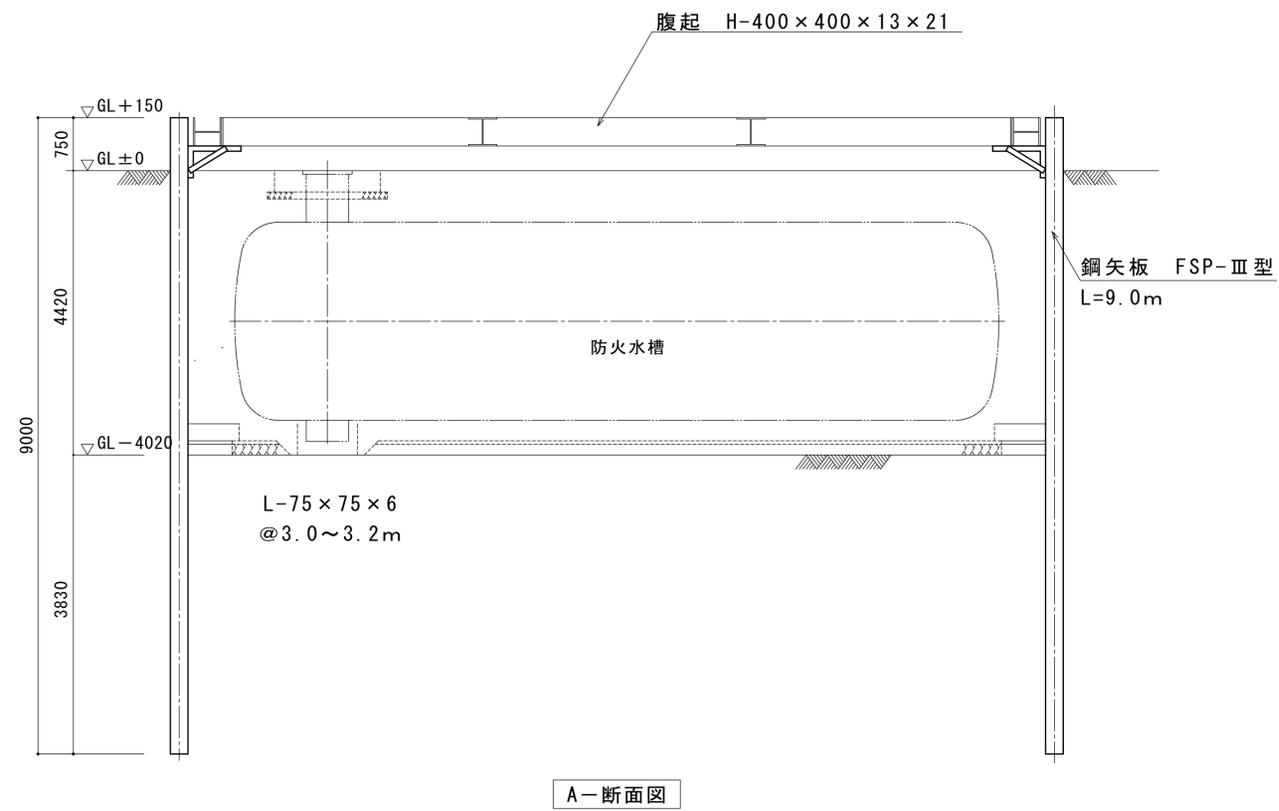
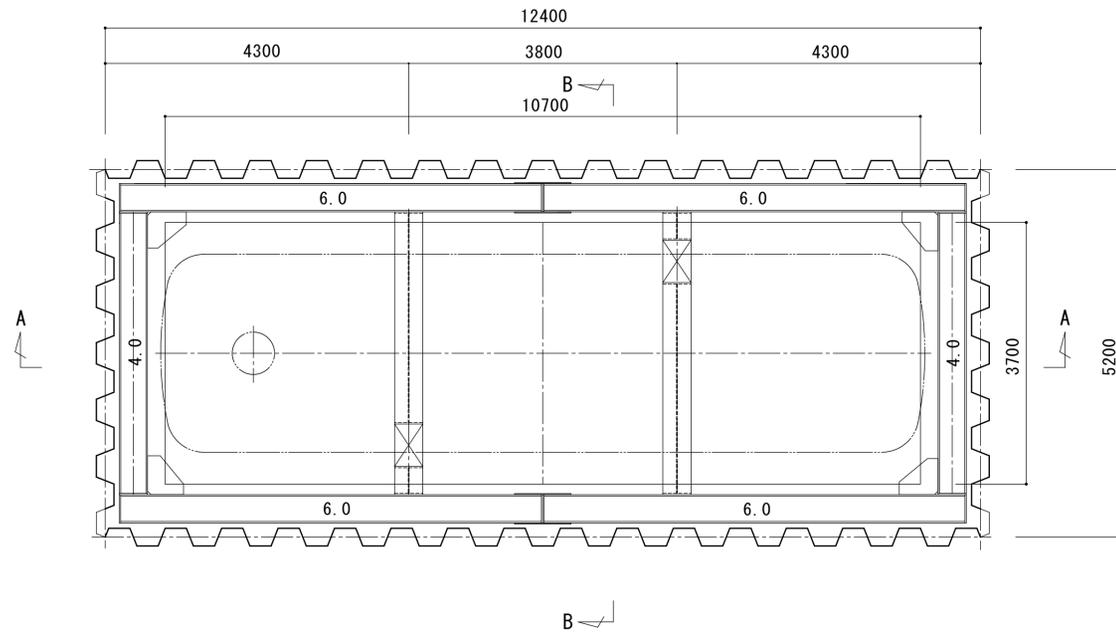
鉄筋重量表

記号	径	長さ	本数	単位重量	一本当り重量	質量 (kg)	重量 (N)	備	要
1	D13	1250	8	0.995	1.244	9.952	97.53	---	
2	D13	3500	40	0.995	3.483	139.320	1365.34	---	
3	D13	650	4	0.995	0.647	2.588	25.36	---	
4	D13	8850	4	0.995	8.806	35.224	345.20	---	
5	D13	10500	12	0.995	10.448	125.376	1228.68	---	
6	D13	2000	8	0.995	1.990	15.920	156.02	---	
7	D13	1040	8	0.995	1.035	8.280	81.14	---	
8	D13	700	20	0.995	0.697	13.940	136.61	---	
合計 D13					350.600	kg	(3435.88	N)	
総重量					350.600	kg	(3435.88	N)	

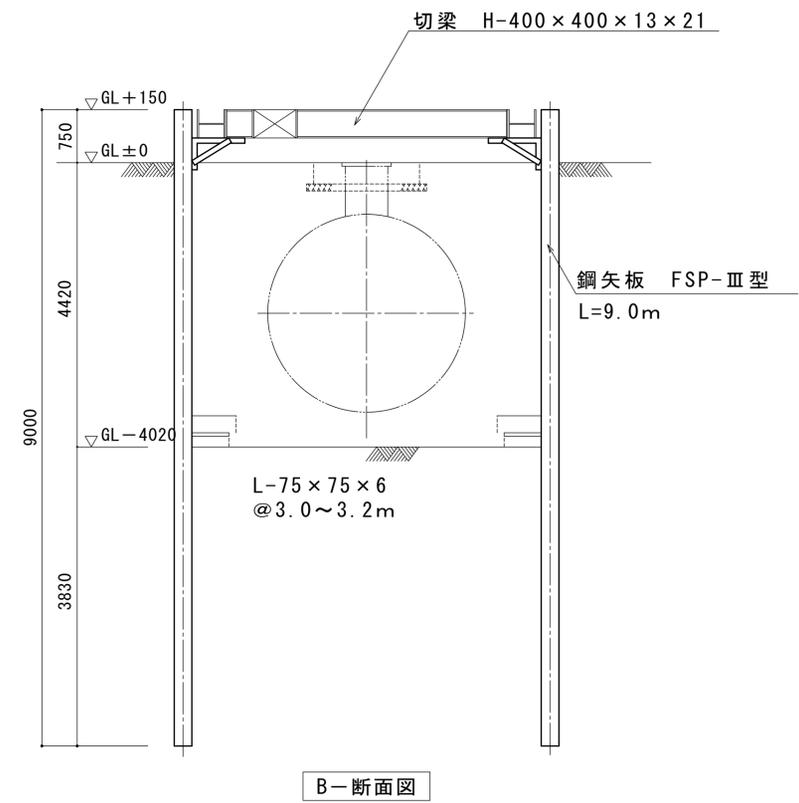
※D-13、S D295以上を使用

FEP性防火水槽 (60m³) 設置用縦坑図

縮尺=1/50



A-断面図



B-断面図

		DATE	PROJ. NO.	PROJ. TITLE	機械
		CHECK		日高村役場新庁舎防火水槽設置工事	
				給排水設備 防火水槽設置用縦坑図	M-05
				A1 S=1:50	
				A3 SCALE 50%出力	